

市民科学プロジェクト
「郷土に向き合う」

(2025.2.11)

長野県民俗の会の発足と現在 —郷土研究と長野—

安室 知
(神奈川大学日本常民文化研究所)

民俗学とは何か

民俗学の周辺学問との関係

- ・「文献史学」
古文献(文字資料)を用いた歴史学
- ・「考古学」
遺跡・遺物(発掘資料)を用いた歴史学
- ・「民俗学」
伝承(非文字資料)を用いた歴史学

・・・民俗学は広義の歴史学の一方法論学問である



民俗学とは何か

近代学問としての成立

学問としての体系化＜1930年代～＞
＝近代科学としての体裁

1. 研究の母体

民間伝承の会（日本民俗学会の前身）発足（1935）
→研究者コミュニティの形成

2. 方法論の提示

柳田国男『郷土生活の研究』（1935）
『民間伝承論』（1934）
→基本概念の整備：常民、民俗の三部分類
重出立証法、周圈論



民俗学とは何か

研究対象としての民俗文化

柳田国男の三部分類（『郷土生活の研究法』1935）

- 第1部.有形文化 : 目で見えるもの = 旅人の採集
- 第2部.言語芸術 : 耳で聞けるもの = 寄寓者の採集
- 第3部.心意現象 : 心で感得するもの = 同郷人の採集

→最終的には第3部心意現象を明らかにしなくてはならないとする
「郷土研究」の必要性（『青年と学問』1931）
→研究単位としての郡（南安曇郡誌、東筑摩郡誌・・・）

民俗学とは何か

民俗学の目的

(1) 経世済民と現在学の志向

柳田国男(1875-1962)の出発点:「農民なぜに貧なりや」
→農政官僚へ:農政学への志向
→農民自らが組合を経営し新たな社会的関係を築くこと
…郷土教育・郷土研究の重視

(2) 郷土教育・郷土研究

民俗学＝郷土研究・郷土教育 <近代民俗学草創の頃>
→郷土研究＝ルーラル・エコノミー(柳田)
「地方経済」と解した南方熊楠(1867-1941)からの批判
→ルーラル・エコノミー＝農村生活誌(柳田)

… 常民の“生きる”目的と方法への強い関心

柳田国男と長野県

・兵庫県福崎町に生まれる

1875年、松岡国男 誕生

・柳田家(飯田市)の養嗣子

1901年、松岡国男から柳田国男へ

・『信州随筆』(1936)

「信州の学徒は文章講演を愛し、又表現の能に長じて居る。彼等もし志を立てるならば、県外に柳田の如き者を五十人百人、作り上げることはさう困難ではない。」

・信州各地での講演

例、1925年、東筑摩郡教育会「青年と学問」(『青年と学問』1931)

1925年、埴科郡教育部会「郷土研究といふこと」(同上)

・地元研究者との交流

例、胡桃沢勘内(1885-1940)との往復書簡132通(『定本』別巻4)

胡桃沢友男著『柳田國男と信州』

柳田国男と長野県（現在）

柳田國男館

1989年、飯田市に設立

飯田市美術博物館の付属施設として、東京成城の「喜談書屋」を移築

柳田國男記念伊那民俗学研究所

1990年、柳田國男館を母体に設立

会員169名（2024年）

『伊那民俗研究』（2024年現在31号）

「この研究所は、民間の学問の場である。全国でも数少ない「野の学」のセンターである。」（初代所長 後藤総一郎）

→同郷人による郷土研究の実践

「長野県民俗の会」の発足

・発足 昭和46年（1971）

→それまで、信濃民俗学会は存在してはいても、それほど活発な活動はおこなわれていなかった。民俗の研究発表の場として意味を持っていたのは信濃史学会（『信濃』1932年—現在）

・発起人 7名（仁科政視、浅川欽一、倉石忠彦など）

・会員数 39名（1971年当初）

→うち22名が教員で、信濃教育会の影響が強かった

・会員数 200名超（1982年）

→長野県では約10年間で民俗学が市民科学として普及

→長野県史民俗編（1984—1991年刊行）の編纂事業とくに県内430地点における民俗誌調査と重なる

未曾有の経済的繁栄下、生活様式の大幅な変遷の陰に民衆の永い精神的物質的生活の跡を証する資料が、日毎に急激な勢いで失われつつあることはご賢察のとおりであります。民具など有形の民俗資料については亡失を憂える方々によって、諸方で保存策が講じられつつあるのを散見いたしますが、無形の資料にいたっては、記録保存のこともなく、亡滅にまかせられている場合の多いのが実情と存じます。

一方ひるがえってみますのに、郷土教育が叫ばれた昭和初期来、柳田・折口その他の諸先輩によって播かれた種は、それなりに信州の諸先輩を育て上げましたが、後続の研究者は昔日に比べて少なく、かつ信州の民俗研究は一部の方々の業績を除いては、他の史学考古学等に比し盛んであるとは言いがたいと存じます。

このままに推移するならば、本県の民俗学研究は将来ますます遅滞し、全国的視野からしてもその弱点部を形成することになりはしないかとおそれるものでございます。

本県が大県である上、地勢上もまとまりにくい所であるだけに、研究者相互の間に連絡をとりあい、切磋しあうならば、より豊かな成果を上げることができ、また前記の状況にいささかなりとも対応できようかと考え、本会を発起いたしました。私どもは、しばらくは会員の多きを望まず、むしろ比較的若い意欲ある方々の同志的結集を得て諸先輩のご指導をいただきつつ、堅実かつ着実な調査研究の歩をすすめたいと考えております。

本会発起の素志にご賛同くださり、ご加入いただけるならば幸甚に存じます。

昭和四十五年十二月二十日

「長野県民俗の会」の活動

・会員数 約140名(2024年現在)

* 県史民俗編の編纂が進む1982年には200名超の会員がいた

→初期の長野県民俗の会の動向は長野県史民俗編の編纂と大きく関わる

<目的>

「郷土の民俗を調査研究し民俗学の向上発展に資する」(会則第2条)

「全国的な視野から民俗学研究を進めること」(HPより)

<活動>

・共同調査(夏期)

・例会(年5回)、総会(年1回)、講演会(年1回)の開催

・「通信」(年4回)・「会報」(年1冊)の発行

・書籍の刊行(例、『信州に生きる』1993、『信州の石仏』2000・・・)

* 2022年に「民俗地図研究会」を組織し、研究活動の中核に設定

長野県民俗の会と長野県史

長野県史編纂事業

- ・長野県史刊行会発足 1966年
- ・長野県刊行終結(全38巻70冊)
 - そのうち民俗編が14冊(資料編12冊、総説編2冊)
- * 他県に類を見ない規模の民俗編

長野県史民俗編(全14巻)編纂との関係

- ・長野県史民俗編 1984—1991年刊行
- ・長野県民俗の会会員がその中核を担う
- ・長野県民俗の会の活動を活性化・会員増加
 - 日本民俗学会第52回年会(2000年)の招致

長野県史民俗編編纂のための民俗誌調査

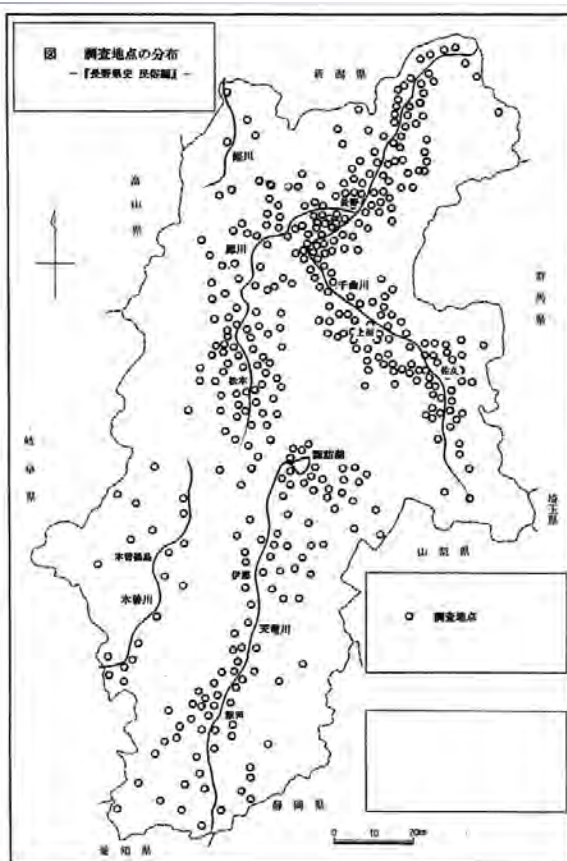
- ・1970年代に県内430地点で実施
- ・500項目の民俗誌調査
- ・民俗地図作成を想定した調査

長野県民俗の会の現在

- ・県史民俗編の刊行が終了し、会員数の減少が続く。
 - 最大200超名から140名へ

活性化に向けた新たな試み

- ・県史民俗編編纂の遺産活用(県内430地点の民俗誌データ)
- ・民俗地図研究会の結成
 - 2024年民俗学会第76回年会にてグループ発表



民俗学会における民俗分布論の現在

- 民俗分布論の嚆矢は柳田国男の「蝸牛考」であったが、柳田の場合、日本を一元的に捉えることにこだわったがため、圏論を民俗学理論とすることを放棄せざるを得なかった（その適用を方言学に留めた）。
- その影響により、民俗学方法論として民俗地図が正当に評価されることがないまま現代に至っている。圏論とともに民俗分布論の芽も摘み取られた。
- その後、民俗研究の方法として、地域民俗学（宮田登）や個別分析法（福田アジオ）が主流となったため、特定の民俗事象について全国から類例を集めて行なう民俗分布論はやはり低調となった。

→そうした風潮に、長野県民俗の会（民俗地図研究会）が、長野県史データをもとに多数の民俗地図を作成することで、現在の民俗学会における民俗分布論に一石を投じる。 →2つの提案（安室2024）

提案1.民俗誌を基礎とした民俗分布論の提案

- 国立歴史民俗博物館によれば、日本には1990年の時点において公刊されたものだけで5200あまりの民俗誌が存在する（国立歴史民俗博物館、[online: minzokushi.html](https://www.minzokushi.html)）。
- このほか、自治体史や国庫補助事業により都道府県別に作成された民俗誌（例、長野県史民俗編：430地点、文化庁民俗緊急調査：1県30地点、民俗文化財分布調査：1県150地点）は未公刊のものが多く存在する。その数はおそらく万の単位になると考えられる。
- こうした民俗誌の多くが網羅的な項目調査が主体であるといった批判はあるものの、この膨大な資料群は日本の民俗学が世界に誇るべき財産といってよい。
- 民俗誌データを用いて民俗地図を描くことで、異なる民俗事象間の関係性を分布差という形であぶり出すことができる。



提案2.中縮尺の民俗分布論の提案

■ 小縮尺の民俗地図

- ・特定の民俗事象に限定せざるをえない
- ・圧倒的なデータの不足
- ・統一的な調査に基づくデータの欠如
- ・民俗誌データとの乖離

■ 中縮尺の民俗地図の必要性

- ・県-郡ごとの分布図(柳田国男の指摘と通じる)
 - ・民俗誌データの活用が可能
 - ・多様な民俗事象間の関連性を探ることができる
 - ・民俗の地域性をミクロに描くことができる
-